

# 私たちは、六ヶ所再処理工場を動かさないよう訴えます。

いま、青森県の六ヶ所村に位置している六ヶ所村に、使用済み核燃料の再処理工場が建設されています。

これは、原子力発電で燃された後の核燃料を溶かし、燃え残りのウランとプルトニウムを、高レベル放射性廃棄物と分けて取り出す工場です。

近くウランを使い、来年四月には実際の燃料を使う本格的な試運転の開始が計画されています。

いったん工場が稼働され、放射性廃棄物が汚染されてしまうと、後始末はとてまやかかなものになります。

**稼働する前に止むべきです。**

再処理工場は、ウランとプルトニウムを回収して、ふたたび発電に利用するためのものといわれていますが、プルトニウムを使った発電は、ふつうの原子力発電所よりさらに危険です。このため、反対の声が大きく、未だに実現していません。ウランについては、本格的な補給計画等もありません。

この時代に、使いみちのないプルトニウムを貯めておけば、「日本は核武装をするつもりが」と世界のひとたちから疑いの目でみられ、対抗して核武装をする国をつくりださねえせん。

**儲けないものをつくる必要はないのです。**

再処理工場が一日動くと、原子力発電所一年分の放射能が出るといわれています。ふだんから地域を汚染し、いったん大事故が発生すれば、地球規模の被害をもたらします。

この再処理工場の総事業費は、十一兆円にもものぼると試算されています。いま建設を中止すれば、三分の一か四分の一くらいの無駄ですみまます。

それでもたいへんな額ですが、危険なことは一刻もはやくやめるのが賢明というものです。事業をつづければ、さらに巨額な費用がかかり、働く人を被曝させ、地域を放射能で汚染し、大事故ばかりか核拡散の危険をつくり、将来に禍根を残します。

**この再処理工場の建設をなだちに止めることこそ、日本の将来の平和を確保し、子どもたちを守ることにあります。**

- 二〇〇四年四月
- 宇井純、宇沢弘文、奥平康弘、鎌田慧、小室等、
  - 澤地久枝、土本典昭、暉峻淑子、中川李枝子、
  - 灰谷健次郎、広河隆一、広瀬隆、松谷みよ子、
  - 道浦母都子、森詠、山崎朋子、山中恒、湯川れい子



えいしかわけん

六ヶ所再処理工場の建設中止アピール事務局

原水禁止日本国民会議

東京都千代田区梅田駿河台3-2-11 総研会館5F

☎03-5289-8224

原子力資料情報室

東京都中央区東中野1-38-16 寿ビル5F

☎03-5330-9520

青森県



**被害が起きる前に皆で反対しましょう!!**